雨もしたたる、いい踊り

蔵の道広場で遠野夏祭り

遠野夏祭り（同実行委員会主催）は８月９日、蔵の道広場で開催されました。訪れた250人は、多彩なイベントを楽しみました。祭りは、昨年終了した遠野まぬけ節フェスティバルに代わるイベントとして遠野町婦人団体協議会、市青年団体協議会らによって企画。金勢様音頭やお楽しみ抽選会など盛りだくさんの内容が繰り広げられました。また、この日の朝に採れた「遠野パドロン（※）」の素揚げも振る舞われ、訪れた人は新たな祭りを存分に楽しみました。鈴木佐江子（さえこ）さん（24歳）＝綾織町＝は「雨でも祭りは楽しいですね。いろいろな催しがあって面白い」と声を弾ませていました。

１_雨に濡れながらも優雅に踊りました　２_テンポのよい曲にノリノリ　３_人気沸騰中のアニメ「妖怪ウォッチ」の曲に合わせ、元気に踊る子どもたち　４_手作りの絵燈籠（えとうろう）が夏祭りの雰囲気をさらに引き立てました　５_浴衣姿は夏祭りにぴったり！

※ピーマンやシシトウに似たスペイン原産の野菜

医学部を志す君にエール

現役医科大生が進路指導

現役医大生が進路指導する「親と子の医療系進学ガイダンス」（県主催）は８月24日、遠野健康福祉の里で開かれました。市内の中学生ら20人は、医学部へ進学するための心掛けや奨学金制度などについて理解を深めました。

講師は、自治医科大４年の佐々木弘揮（ひろき）さん＝綾織町出身＝。佐々木さんは、自身が医学部に合格するまでのプロセスを紹介し「志を高く持ち、日々の積み重ねを大切にすれば夢は必ずかなう」とアドバイス。及川洋人（ひろと）君（遠野中１）は「目指すだけでなく、今からしっかりと勉強に励み、自分の夢をかなえたい」と目を輝かせていました。

自身の経験を紹介しアドバイスする佐々木さん

家族の祝福を受けるマツヘさん（前列中央）

100歳の節目を家族ら祝福

細川マツヘさんが誕生日

上郷町の細川マツヘさんの100歳を祝う会は７月17日、入所している介護老人保健施設やまゆりの里（宮守町達曽部）で行われました。家族や同施設の利用者ら100人が出席。菊池孝二（こうじ）副市長や家族から花束や記念品が手渡されると、マツヘさんはほほえみました。マツヘさんは大正３年に住田町に生まれ、20歳で源吾（げんご）さん（故人）と結婚。農業や野菜の行商に励みながら１男４女を育て上げ、孫６人、ひ孫14人、やしゃご１人に恵まれました。長女の伊藤ツエ子さん＝早瀬町＝は「戦後の混乱期も、私たちを育てるために一生懸命働いてくれてありがとう」と感謝しました。

地域活動専門員日誌

女性の視点で町おこし

テニス教室が大盛況！

小友地区センター
地域づくり担当
小笠原俊裕（としひろ）さん

昨年４月に小友地区センターで企画した「夢のある町について語ろう会」がきっかけで、20～40代の女性を中心に「ゆめまち会」を結成しました。同会は、クリスマスイルミネーションの設置や廃品回収、催しでのハンドベルの披露など女性の視点を生かした地域づくり活動に取り組んでいます。最近はテニスサークルも立ち上げ、地域住民の交流の場を積極的に提供。現在、会員募集中です！

１_改修される宮守駅舎　２_おなじみバナナの早食い競争。誰が一番かな？　３_のど自慢大会も開催。会場はわいわいガヤガヤとにぎやかでした　４_豪華景品が当たるくじ入りの餅まき大会。拾う側は真剣です

ありがとうみやもり駅舎

最後のにぎやか祭り開催

宮守駅前にぎやか祭り（宮守駅前商店会主催）は８月８日、同町の銀河の森運動公園で開催されました。訪れた地域住民ら300人は、バナナの早食い、郷土芸能、のど自慢大会など、多彩なイベントを楽しみました。祭りは30年以上開催され、夏のイベントとして地域に親しまれてきましたが、運営スタッフの高齢化や宮守駅舎が改修されることなどを理由に今回で最後。石原利彦（としひこ）会長は（66）＝同町＝「寂しいが、最後まで地域の人に楽しんでもらえて良かった。慣れ親しんだ駅舎には、ご苦労さまと言いたい」と思いを語りました。

みらい創りカレッジ通信

震災を風化させないための教訓を探る

教育機関や民間企業などが連携して復興を考える「第３回東北みらい創りサマースクール」（同実行委員会主催）は８月８～10日の３日間行われました。「震災の記憶を風化させず、教訓を未来につなげていく」をテーマに、参加者は震災当時の記憶を振り返り、未来に残すべき教訓について対話。普段から食料などを備蓄することの重要性や、有事と平時を分けず、日常の中に防災意識を落とし込んでいく必要性について理解を深めました。

輪になり対話を深める参加者

留学生が夏の遠野を満喫

国際文化交流事業で来遠

「遠野インターカルチュラルスタディーツアー」は８月５～８日の４日間、遠野みらい創りカレッジを拠点に開かれ、東京大などの外国人留学生16人は市内に民泊しながら遠野の風土を学び、地域住民との交流を深めました。

６日には土淵児童館で、児童40人と祭り屋台、ゲーム、流しそうめんを楽しみながら日本文化を体験。最終日の８日には、同カレッジで研究発表会を行い、外国人の視点で気が付いた遠野の観光地としての課題点や、海外に遠野の魅力をＰＲする方法などを市内の観光関係者らに提案しました。

１_児童と一緒に流しそうめんを楽しむ留学生ら　２_祭の屋台も体験。異文化に理解を深めました　３・４_外国人ならではの視点で遠野の魅力やそのＰＲ方法について、観光関係者らにアドバイスしました

良いアイデアがあります！